

JAMCA ジヤムカ

ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No.47

2005年10月1日

発行
協会事務局

全国自動車整備専門学校協会

〒160-0015 東京都新宿区大京町31

ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066

〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3

☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988

ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

編集事務局



自動車大学の必然性については、中川裕之会長がJAMCAニュース45号で、また整備士のイメージ改善

については、前号で今井正弘理事が述べておられますが、会員校の学生が各企業に理解されるために現在進行しているソーシャル検定試験について、これまでの経過を報告いたします。

平成16年5月に委嘱された自動車ビジネス能力検定委員会は、17年3月の理事会でJAMCAのコンセプトの明確化を踏まえて、委員会名を「JAMCAソーシャル検定委員会」と改称され、関東工業自動車大学の合津正彦先生、読売江東理工専門学校の宮崎勝美先生、東京自動車大学の佐藤明洋先生、広島工学院大学の古澤幸治先生、中部国際自動車大学の齋木裕司先生、JAMCA事務局と各種アドバイザーとして㈱オービスの成毛明生社長が委員に選任されました。

委員会は試験制度の構築に向かうファーストステップとして、検定用教科書の作成および編集を目的に、そのレベルや内容などについて、積極的に活動を進めてきました。

特にJAMCAが構想する「ファーストクラス・オートモビル・エンジニア資格」が、一般的な「知育」を構築することになるため、ソーシャル検定では「徳育」および「人間教育学」を含む実践的で個性的な教科書作りが不可欠であることが委員会で合意され、JAMCAの独自性や業界の独自性を、どう盛り込むかを検討してきました。

また、委員間で分担執筆を進める過程で、より簡潔な表現や箇条書き処理、

ソーシャル検定試験

中部国際自動車大学校 理事長
北日本自動車工学専門学校 理事長
全国自動車整備専門学校協会 副会長
JAMCAソーシャル検定委員会 委員長

齋木 寛治



分かりやすい図を多用するよう工夫することなどを決め、教科書の製作に入りました。

現時点で原案の教科書が一部完成しましたが、さらに重複箇所の整備、表、図などビジュアルの追加や、JAMCAの独自性が十分に表現されているか否かの課題を検討しています。

いまさら言うまでもありませんが、近年、自動車整備士に求められる能力は、技術力に加えてコミュニケーション能力や状況判断力など多様化しています。したがってソーシャル検定教科書では「教養編」と「実践編」の2本立てとし、教養編は従来のコンセプトで、実践編では新規コンセプトで編集しています。

実践編の編集方針は①JAMCAの教育理念として固まってきた「若者に夢と希望を」に添って、これを教育の場に役立てるツールとする。②ビジネスマナー、コミュニケーション能力、状況判断力などを高める。③求められる人間像として、最後までやり遂げる

粘り強い精神の持ち主であり、気配り、臨機応変の対応に優れ、自己主張と妥協の適切な使い分けを心得、

挨拶、エチケット、マナーが身につけていて心豊かな人間性が感じられる者、さらに信頼できる技術と知識を持ちながら、絶えずそのレベルを向上させようと努めている者を形成する。④社会人になってから経験的に学ぶであろうことを教育で気付かせる。⑤社長（先輩）の価値観を知らしめる……以上の5項目です。

中川会長の目指すソーシャル検定は、将来的に国（官）が検定を実施し、資格のクオリティを保証する時代が無くなるであろう、そんな時代に備えて、JAMCAが独自の教育と独自の資格制度を樹立して、これを権威ある民間資格として確立することにあります。

さらに国家資格一級自動車整備士の資格と、JAMCAソーシャル検定資格を取得した人に、ファーストクラス・オートモビル・エンジニアの資格を与え、JAMCAの証明書発行で履歴書にも記載でき、やがて幅広い能力を保証する資格として、社会に認知されることを期待しています。早期に試験が実施できるように、会員一同のご協力をお願いいたします。

CONTENTS

2面	OPINION
3面	我が校自慢
4・5面	一級自動車整備士のインターンシップの現状
6面	協会トピックス
7面	活躍卒業生・地区通信
8面	私の教材活用・編集後記